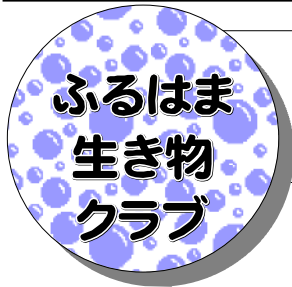




特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 15号



東京海洋大学との協働事業として、近隣の小学生を対象に、ふるさとの浜辺を使って科学的な思考力を育む催し物を開催しました。  
企画を担当した、東京海洋大学4年の和木美玲さんの報告です。

5月23日から6月13日までの1ヶ月間、毎週日曜日に「ふるはま生きものクラブ」を開催いたしました。「ふるはまにはどんな生きものがあるの?」という子供たちの疑問をもとに、科学者の研究活動と同じように「探す」「調べる」「記録する」「発表する」というテーマで全4回のプログラムを行いました。

初回はあいにくの小雨でしたが、子供たちは元気いっぱいふるはまに向かいました。手網をもって



果敢に採集をする子、学生が投げた投網を自らの手でひっぱって漁師気分を味わう子など、それぞれ夢中になって生きものを探しました。

2回目は、生きものをよく観察して、特徴を見つけながら図鑑を使いふるはまの生きもの名前を調べました。「ボラの尾の形はハートっぽい」など豊かな発想で表現をされていて、学生ともども生きものについて学ぶ機会となりました。

3回目では、ふるはまの生きものの絵と特徴を描いた「生きものカード」を作り、見つけた生きものを記録しました。また、実際に科学者が使っている標本を見せると「すごい…」「これ本物?」「作りたい!」という声上がるほど子供たちは興味津々でした。

最終回には、東京海洋大学の河野博先



生をお招きし、子供たちは自分が調べた生きものを海の科学者に発表しました。発表前は緊張していた子も、いざ本番とな

ると前を向いてハキハキと発表をしている姿に、子供たちの成長を感じ取ることができました。後半では、河野先生が東京湾に生息する生きものの楽しい授業をして下さいました。先生への質問の時間にはたくさんの手が上がり、皆、海の生きものについてもっと知りたいようでした。最後には、生きもの調査隊認定書と生きものカードセットを配布し、長期にわたるプログラムを無事終了しました。



子供たちが一生懸命描いた生きものカードはふるさと館に寄贈させていただきました。ぜひ、ご覧いただき、ふるはまにどんな生きものがあるのか、みなさんも一緒に探してみてください。

(東京海洋大学：和木美玲)

## 夏休みの催し物のお知らせ

申込みはいずれも7月11日(日) 9:00~電話受付

7/25(日)、8/22(日)  
浜辺の生き物探検隊

対象：小学3年生以上  
費用：100円/定員：各回20名(先着)  
持ち物：タオル、飲み物、帽子、ぬれてもよい服と靴、着替え

7/29(木)ペーパークラブ  
「ペカブネづくり」

対象：小学3年生以上  
費用：100円/定員：30名(先着)  
持ち物：ハサミ

# 夏の大森 人々の祈り

夏の間、海苔の生産者の暮らしはどんなものだったのでしょうか。元生産者の方々から伺った当時のお話と、現在も受け継がれている行事を織り交ぜながら、海苔の街の風景を辿ります。

ヒビ抜きが終わり夏になると、つかの間の休息が訪れます。この時期には、船下ろし（進水式）や婚礼、仲間との神社・仏閣への参詣、氏神のお祭りなどが行われていました。

4月初めは成田山参詣、7月は武蔵御岳、大山阿夫利神社、富士講の富士登山などが海苔生産者の信仰を集めていました。参詣は地域の講の仲間で行われ、普通は大将（一家の年長者）が参加しましたが、中には「ワレ（お前）、行ってこいよ」と言われて年下の者が行く家もあったそうです。



大山に奉納された海盛講の石碑

大山阿夫利神社（神奈川県）は、海運の神として大森では特に深く信仰されています。神社の水をかけると海苔がよく育つといわれました。途中で温泉に寄って遊ぶことができるので、参詣の中でも人気が高かったそうです。

海苔が終わって50年近く経ちますが、現在も浜端地域の海盛講、堀之内地域の海秀講、前方地域の（まるだい）講など、地域ごとに大山参りが続けられています。

さて、6月に入ると、厳正寺から水止舞（みずどめのまい）の練習の音が聞こえてきます。

水止舞は、東京都無形民俗文化財に指定されている680年以上続く行事です。干ばつの際に祈祷したところ数年後は長雨となり、再び祈祷し雨が止んだことから、水止舞を奉納するようになりました。

行事の前半は、龍神に水をかけて練り歩く「道行き」で、後半は境内の舞台上、雌獅子を巡って花籠の間を若獅子と雄獅子が勇壮な踊りを繰り広げる舞が舞われます。



この行事は、例年、晴天に恵まれることが多いそうです。獅子と花籠の役は、面の重さや蒸し暑さに耐えながら踊りと演奏を続けるため、相

当な体力と精神力が必要となります。しかし、水止舞保存協会の熱心な指導で、後継者が不足することなく若い世代が育っているのだそうです。



練習は週2回の全10回で、その風景を見学させていただきました。本殿にビリビリと響く太鼓と笛の音が、伝統を担う誇りと熱意を物語っているようでした。

やがて、水止舞と盆が終わると、季節は猛暑を迎えます。7月20日過ぎには海苔簀の材料であるヨシ刈りが始まり、本格的な海苔の準備シーズンへと移っていったのでした。（五十嵐）

平林義正氏、鳴嶋享郎氏、鳴嶋光吉氏、田中宏氏、福本一良氏、鳴嶋兼雄氏、平林勲氏を始め、多くの元海苔生産者の方々に貴重なお話を聞かせていただきました。この場をお借りして感謝を申し上げます。



<インフォメーション>  
●厳正寺（大田区大森東3丁目7-27）  
★水止舞  
7月14日（水）午後1時に、大森東中学校正門前からスタートします。

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報「大森海苔のふるさと館 ニュース」15号  
平成22年7月1日発行  
編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会  
連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号  
TEL 03-5471-0333  
FAX 03-5471-0347